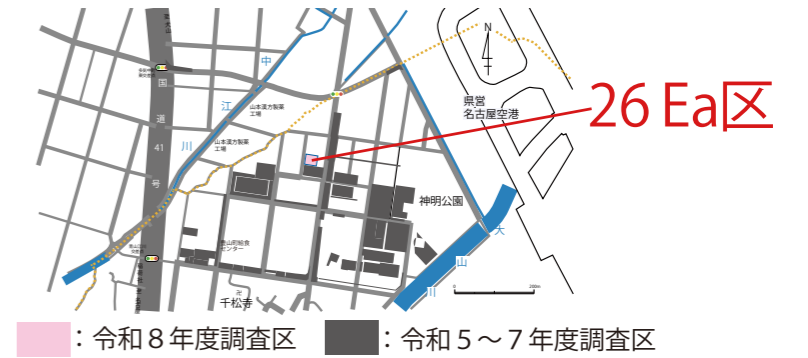




青山神明遺跡 発掘だより 17号

令和 8年 7月 6日



26Ea 区位置図



道 水路 室町時代の溝
調査区と明治時代の地籍図



道 水路
石を敷いた道と水路



とこなめやき おおがめ
道の真下で見つかった常滑焼の大甕

◆ 26Ea 区の調査成果

愛知県埋蔵文化財センターでは、今年度も青山神明遺跡の発掘調査を実施しています。現在は、昨年度に実施した調査区（25P 区）のすぐ北側から順に調査をしています。

26Ea 区では、南隣（25P 区）から続く明治時代の道と水路、東隣の調査区（25E 区）から続く室町時代の溝が確認できました。

明治時代の道と水路は、現場で二股に分かれていることが確認できました。明治17年に作成された地籍図でもしっかりと二股に描かれています。水路からは大正時代以降の遺物も出土しており、このあたりが圃場整備される直前の昭和初期まで使われ続けていたことがわかります。

道の真下からは、常滑焼の^{おおがめ}大甕が据えられた状態で出土しました。道を作る際に、路面より高くなる部分は邪魔なので割られたようです。

室町時代の溝は、南へ大きく折れ曲がって、最終的には明治時代の水路とほとんど同じ位置に重なります。こうした状況から、明治の水路があったあたりは、昔から水を集めやすい基幹的な水路としての役割を果たしていた場所だと推定できます。

このほか、26Ea 区の西端では古墳時代の土師器や須恵器^{すえき}が出土しはじめています。今後、西側にも調査を展開していく予定ですので、乞うご期待です。



大きく曲がる溝（室町時代）